

坂の途中に住む理由

菅原に住むのはなかなか大変。昔は馬、今は車が必需品です。今セコわめし坂に住む方から、それでも車が住人だのは東海道を歩く旅人を相手に販売が出来ること、そして山に水源があったからと教わりました。昔、水道が通る前は坂をのぼって水をくみに行くのが子供の仕事。飲み水はもてるん、五右衛門風呂に使う水まで全てまかっていたので、子供たちは桶を担いで急な石畳の坂を一日十往復以上してました。今では想像もつかない重労働ですが、子供たちにとっては坂は遊び場でした。坂下の学校へ向かう時はみんなで集まり、よーいドンで競争しながら楽しんで通ってました。坂に住むのは大変だと考えがちですが、平地では決して味わえない喜びを与えてくれるのもこの土地。坂の良いところを見つけて、住んでいける自分かその風量を受けられるようにです。地は素晴らしいと思いを与えてくれるようにです。

一対の一里塚

一里塚は一里二4 km ごとに設置された旅人の目印です。各所にあり、三島にも錦田一里塚、菅原一里塚、山中新田一里塚があります。その中で錦田一里塚は大正11年に国の史跡に指定されました。その理由は道の両側に一対になって一里塚が残っていたからです。そして一里塚は一対でつくられていたものでした。しかし時代と共に道幅を広げる傾向が全国的に広まり、一里塚の片側は消えていきました。そんな中錦田一里塚は一対のまま残り、今も大切に守られています。残った理由は元々三島の道幅が広かったからとの話もありますが、一里塚を守りたいと思ふ三島の人の気持ちが強かったからかもしれません。

坂の畑

箱根旧街道は急な坂が続いています。そこに広がる野菜畑。野菜にとつて最高の環境と評判です。うっかり手を滑らせると収穫したスイカが下まで転がっていつと割れてしまったり、斜めの土地です。機械はうまく作動しないため、ほとんどの農作業が人の手で行われます。坂の畑の合言葉は「手ぶらで歩くな!」これは畑内での使われりから少しでも減らすため、移動する時は大根一本でもいいからとかく何か手にしていきい意味です。こんな大変な畑ですが、斜めの間で日当たり抜群。土も水はけの良い砂を含んだものと、栄養と水を蓄える力が強い粘土質の土とがバランスよく混ざっている最高のものです。市内三箇所にある農産物直売所フレッシュ等で、美味しい「箱根西麓野菜」を探してみてください。

- JA三島西麓直売所フレッシュ錦田店 055-972-0134
営業時間 平日 9:00~13:00
土日 9:00~15:00

寒ごらゝ団子

山中新田は三島宿と箱根宿の間。急な坂が多く、疲れた旅人が休憩を取る場所であったことからの宿(あいのしゆく)として栄えていました。ゆつくり腰を据えて休むのではなくちよつと一服、が山中新田スライル。ここでも出出されていたのが寒ごらゝ団子です。疲れて休みにきた旅人にかつと出せるといふことで、お団子が好まれたようです。寒ざらしとは、冬の寒い時期にお米を外に干しただ粉で作るところからきています。300年も前から旅人を癒してきたます。山と山城の売店で楽しむことが出来ます。人を癒すも山という目的は揚げて、白いものとヨモギを練りこんだ緑のものに甘い味噌をかけて売られています。食べた瞬間からしつかり栄養になるようなお団子で、今でもウオーキングを楽しむ人の背中を押してあげている影の立役者です。

- 山名城跡案内所売店 055-985-2970
定休日 月曜日
(祝日は営業、翌日休み)
6個300円

大根干し

空気が冷たくなる11月下旬。富士山をバックに青空のもと、真っ白な大根がずらりと干されます。丸くあん漬けを作るための景色だとちよつと紹介したところ素晴らしい景色だとちよつと紹介したところ。自分のカメラに収めようが望むのは晴れが遠方から訪れます。カメフラエの見えるのは晴れが遠くことを望みます。写真を撮るならばやはり大根が輝いていていなくちよつと。でも生産者である農家が望む天気は違っています。美味しくが重要。雨が降り続いたため大根がすすり乾くことが続いています。雨が降り続いたら乾きすぎでしまいます。大切な良い風が吹くこと。景色として大根干しを見るカメフラエと、大根干しは味にこだわる農家さん。望む景色は少し違っていきます。

- たくあん漬け販売
・12月上旬に開催される箱根大根まつり
・JA三島西麓直売所フレッシュ

こわめし坂

三島一箱根間で一番の難所であるこわめし坂。あまり急な斜面に思わずに急がずに出でしてしまいます。この変わった坂の名前、由来は二つあります。昔お米と小豆を背負ってこの坂をのぼった旅人がいました。途中荷物が見ると、熱気と水がたいていさうすです。もう一つは多くの人が途中で疲れきってしまったため、坂の始まりで商人が「この坂はこわめしを食べてからでないとはいえないよ!」と声を掛けていたことから名がついたというものです。今でも空腹ではのぼれない急な坂。何と昔はこれよりもうと急だったので。現在は車が行き通れるように整備されていいますが、当時は急な坂の上に全て石畳だったといふから驚きです。お米がこわめしを持ってしまふのを納得。真夏の暑い盛りにも重い荷物を背負ってしまふので。頭の中まで蒸されてしまふので。

お見通し

箱根西麓の畑の主は雨が降ってくる前に予言します。お嫁にきたばかりの奥さんは、どうしてわかかるのかと大層驚くそう。夕木明かしは畑が高い山の斜面にあると見えるのです。遠くで降っている音が聞こえ、雨が濡れずにするままです。また同じようによく見えるのは畑の畑。坂の畑は互いに盗み合いです。もちろん盗い他は作物ではなく、技術です。平らな畑と違い他所構がどんな方法で作業しているのかはつきり見えません。良いことではどんどん真似をします。情報を盗み合うことではどんどん真似をします。美味しい野菜をたくさん作る事が出来るのです。

こら巻き

冬に松並木を通ると目につくのが、木に巻かれたこら。これは木を寒さから守るために巻きつけているのではなく、昔から松を虫から守るために行われているこら巻きです。冬寒くなる虫は温かい場所を探してきます。そんな折に外は寒いからと虫が木の中に入り込んでまらうと松は枯れてしまいます。特にカミキリムシに寄生している虫が松の天敵。この虫が松に入り込んで松は紅葉したように赤くなり、生きていられなくなってしまう。こらを巻くのは立冬から啓蟄(けいせい)までの寒い時期。箱根旧街道には400本ほどの松が植えられるので180本ほどです。これより細かい木はまだ若くて丈夫なので巻かなくていいそう。大い幹にこらが巻かれた様子は冬の風物詩となっています。

この物語は箱根西麓地区の住民さんによって作成されたものです。

2010.3

三島市商工観光課

制作

協力 箱根西麓地区のみまさん

描 鈴木克彦さん

箱根 物語

箱根旧街道魅力

歴史風景文化箱根西麓野菜

こら巻きたる住人たちの物語

「歴史あるところには未来はある」山名城跡近くでうなぎ屋を営む竹屋さんが感動し、ここでの販売を続けていこうと決意した言葉だと教えてくれました。お店の名前は鰻工房竹屋。この場所が疲れた旅人のために美味しいものを提供し続けています。昔はお団子やおそば、現在は息子さんが20年のうなぎ屋での修行を終え、三島名物のうなぎも出しています。急な坂の曲がり角にたたたすむ歴史ある建物。ガラガラと扉を開けると、いろいろも温かな笑顔でお客様が迎えてくれます。美味しいものを食べて、この後の旅も頑張ってくださいね。こんな気持ちを支え続けています。冬は雪がちらつく山中。歴史を大切にしながら未来をつくり出しているこの場所での疲れを癒していきませんか。

- 鰻工房竹屋 055-985-2307
定休日 水曜日
営業時間 平日 11:00~18:00
土日祝 11:00~19:00

のぼりとくんだり

箱根旧街道を歩いてみようと決めた時に、頭をよぎる疑問。三島からスタートののぼりと、箱根峠がスタートの途中で家があり、毎日の生活の中で旧街道を歩いている方によると「日常生活ではやっぱりのぼりが大変!」とのこと。買い物や近所のお宅へ行く時といつた少しの移動はのぼりが大変だそう。一歩踏み出す前によきよきと一声必要です。ただ長距離をきくと準備して歩く場合は話が別。くんだりには勢いがついて見染そうに感じますが、体、特にひざへの負担はくだりの方が大きいです。普段歩き慣れていない方やウォーキングに慣れていない方が箱根旧街道に挑戦するならば、最初は「のぼり」がおすすです。

坂の恵み

坂での日常生活には不便なところももちろんあります。でも暮らすには味わえない特別な体験が日常なのです。眼下に広がる美しい夜景。美味しい野菜は大地の恵み。春には山が食材の宝庫になります。またこの地で育った子供たちは自然に親しみ、山からたたくさのことや、ケガをした時は祖母から教わった止血め草で手当をします。自然と上手につきあひ、心豊かな大人になつていこう。大変だと思わずにはなく、発想を変えて楽しんでみるのだから、特別に楽しめる。この考えで別な地域域域にしているのだから、特別に楽しめる。この考えで人生は何倍も素晴らしいものになるのよ。こう語ってくれたのは坂にお嫁にきたお母さんです。

おもてなし処

「歴史あるところには未来はある」山名城跡近くでうなぎ屋を営む竹屋さんが感動し、ここでの販売を続けていこうと決意した言葉だと教えてくれました。お店の名前は鰻工房竹屋。この場所が疲れた旅人のために美味しいものを提供し続けています。昔はお団子やおそば、現在は息子さんが20年のうなぎ屋での修行を終え、三島名物のうなぎも出しています。急な坂の曲がり角にたたたすむ歴史ある建物。ガラガラと扉を開けると、いろいろも温かな笑顔でお客様が迎えてくれます。美味しいものを食べて、この後の旅も頑張ってくださいね。こんな気持ちを支え続けています。冬は雪がちらつく山中。歴史を大切にしながら未来をつくり出しているこの場所での疲れを癒していきませんか。